

若者の地域活動に関する調査レポート

2025 年 6 月

一般財団法人とっとりコミュニティ財団

1. 概要

(1) 調査目的

本調査研究は、鳥取県内の若者(高校生～25 歳以下)の地域活動に関する実態を把握し、課題の構造化に取り組み、当財団の助成事業に活用するために実施したものである。

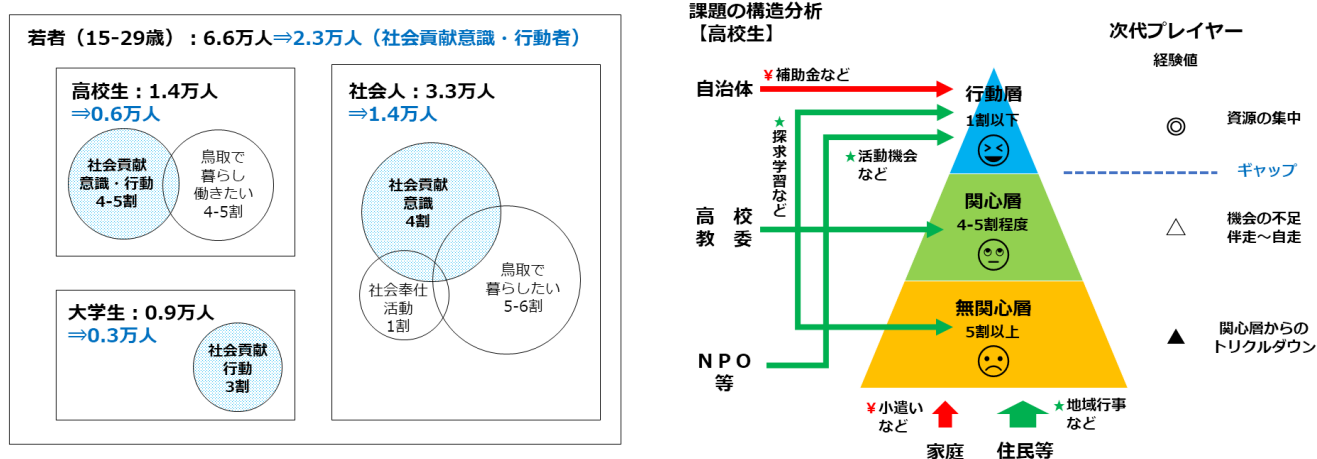
(2) 調査期間 2025 年 1 月～6 月

(3) 調査方法 既往調査や当事者及び関係者等へのヒアリング調査

2. 仮説設定

(1) 既往調査

本調査にかかる既往調査として、当財団設立準備会が 2024 年度に実施した調査(【とっとりコミュニティ財団スタートアップ事業】事前評価レポート)において、若者の地域活動においては、ごく一部の「行動層」に資源が集中しやすい傾向にあり、地域活動に一定の関心がありながら、機会の不足等により行動に移せていない「関心層」が半数近く存在することが仮説として示されている。



図表 1 鳥取県内における若者の地域活動への関心層の仮説

(2) 地域課題仮説

そこで本調査では、高優先度の当事者として、伴走支援が必要な高校生・大学生を特定し、当事者及び関係者等へのヒアリング調査を行い検証した。

(3) ヒアリング先

- 若者 : 4 名 (高校生 2 名、大学生 2 名)
- 学校 : 4 件 (高校 1 件、大学 3 件)
- 若者支援 NPO 等 : 9 件

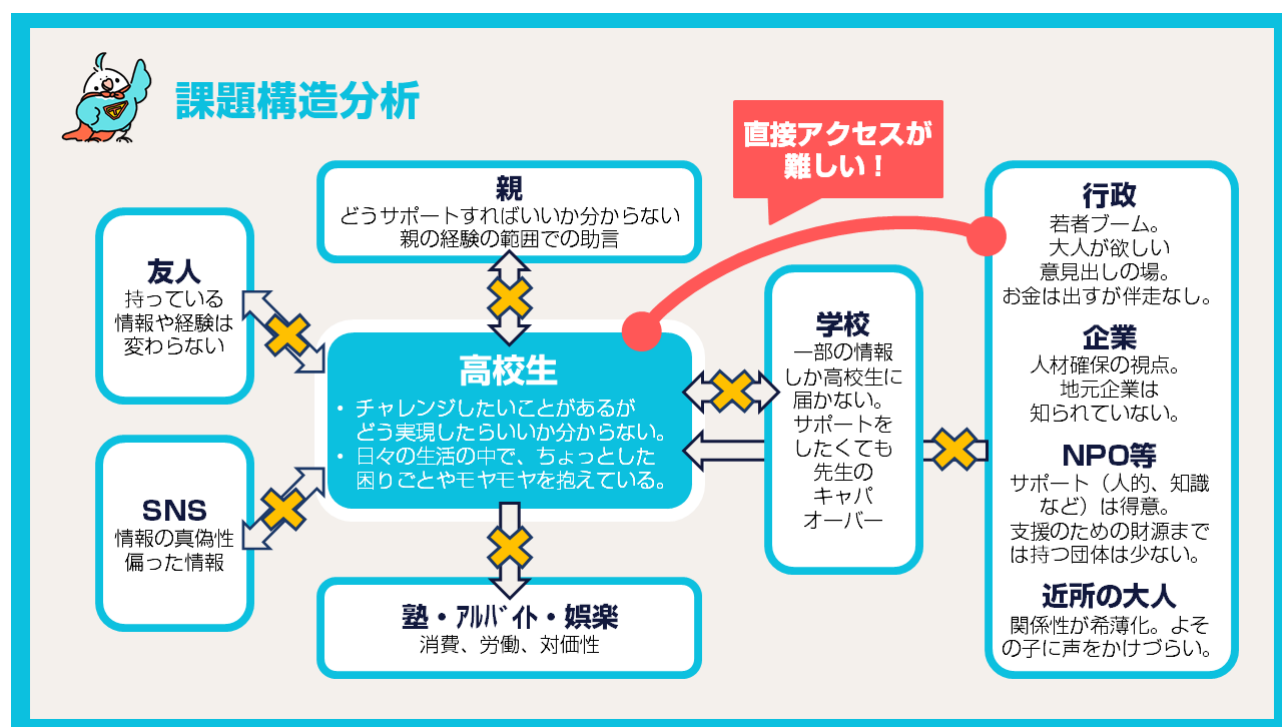
3. 当事者理解

ヒアリング調査から得られた当事者等の主な意見は以下のとおり。

高校生	- 地域の中に居場所がない。気になること、思っていることを気軽に話せる場も人もいない。 - 友達と過ごせる場所、遊べる場所、自習できる場所がない。公共交通が不便。
大学生	- 県外出身者も多く、そもそも地域に接点がない。 - 何かやりたいと思っても、相談する先がない。何かやりたいと思っても仲間が見つからない。
高校・大学	- 課外授業をやりたい、つながりたいという学生は多いが、授業としての制約やマンパワー等課題が多い。 - 何かやりたい、地域に出たいという学生は一定数いるが、どうサポートしたらよいか分からない。
若者支援 NPO等	- 地域側の受入れ体制ができていない。 - 地域側がテーマ設定をしている。

4. 課題構造分析

これまでの調査をもとに、以下のとおり、課題構造分析を行った。関心層の若者には伴走支援などのサポートが必要だが、現状では直接アクセスすることが難しいことから、若者チャレンジを促進する新たな仕組みが必要である。



図表 2 課題構造分析 課題構造（高校生の例）

5. 総括

本調査から、鳥取県内の若者の地域活動に関する実態について一定の把握がなされるとともに、課題の構造化を行うことができ、当財団の助成事業の設計等に当たり有益な知見が得られた。

引き続き、事業の実施を通じて、実態把握や課題の構造化の解像度を上げ、事業の改善等を行うことにより、地域課題解決に寄与していくことが重要である。

6. 参考文献

「コミュニティ財団のつくり方」一般社団法人全国コミュニティ財団協会（2024.10）

※ 本調査は、全国コミュニティ財団協会等の助言・協力等のもと実施しました。